

# 【提案】中学校部会 分科会1 「表現力の育成をはかる授業の工夫」

府中町立府中緑ヶ丘中学校

## 1 はじめに

現代社会において、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な視点から物事を捉えて自分の伝えたい思いや考えについて根拠を明確にして表現する力が求められている。

安芸郡中学校教育研究会国語部会では、「書くこと」の活動に焦点を絞り、令和5年度から「表現力の育成をはかる授業の工夫」という研究主題のもと、安芸郡7校で研究を進めてきた。令和5年度は副題を「目的や意図に応じて効果的に書く活動を通して」、令和6年度は副題を「相手に伝わりやすくするために」とし、授業を公開した。

## 2 研究の概要

令和5年度は「目的や意図に応じて効果的に書く活動を工夫すれば、自己のよさや考えを表現する力を育成することができるだろう」という研究仮説を立て、海田西中学校において、選択した「故事成語」を自分の体験や日常の出来事と結び付けながら、「『後世に残したい』故事成語集をみんなで作ろう！」という授業実践を行った。

令和6年度は、相手に伝わりやすい書き方とは何かという観点で「文章の構成や論理の組み立て方について工夫すれば、自己のよさや考えを表現する力を育成することができるだろう」という研究仮説を立て、熊野東中学校において、修学旅行のプレゼンテーションのための原稿を書く活動で、文章の根拠の明確さ、目的や意図の吟味に特化した文章を生成AIに作成させ、その文章を推敲することで、書き直すべき部分を指摘しやすくする授業実践を行った。

## 3 実践例(成果○ 課題●)

(1) 令和5年度は、「目的に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(B 書くこと(1)ア)」を目標とし、目的や意図に応じて効果的に書く活動として、故事成語を根拠に、自分の体験や日常生活の出来事を振り返り結びつけた創作文を書かせた。

○ 集めた材料を整理する際、シンキングツールを用いて整理させることで、伝えたい内容を焦点化することができた。

●「なぜこの故事成語を選んだのか」という創作文の意図を意識させるべきであった。

(2) 令和6年度は、「読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(B 書くこと(1)エ)」を目標とし、文章の構成や論理の組み立て方について工夫する活動として、指導者の用意した生成AI作の原稿二つを比較しながら推敲部分を指摘させ、その理由を言葉で説明させて理解を深めることで、推敲する力の育成を図った。

○ 「何を伝えたいのか」という観点で互いの意見文を読み合うことで、根拠の客観性や具体性、根拠と意見の整合性等、適切な根拠であるか否かを吟味させ、不適切な部分を指摘し、推敲することができた。

●ループリックを示していたが、どのような推敲がなされ、どのように書き直せたらB評価なのかという、目指す生徒の姿が不明瞭であった。

●生成AIを指導者が使う場合には、生成AIに対しどのような指示が適切かを検討する必要がある。

## 4 成果と課題

○安芸郡の国語部会として、一つの研究主題で授業研究に取り組むことで、「書くこと」について、さまざまな授業提案ができた。「国語の授業がよく分かる」とアンケートに回答した生徒の割合が安芸郡内7校の平均89.0%と、各中学校で分かりやすい国語の授業が実践できている。

●各校の研究主題と、安芸郡国語部会の研究主題のすり合わせが難しい場合もあった。